みどりの東北

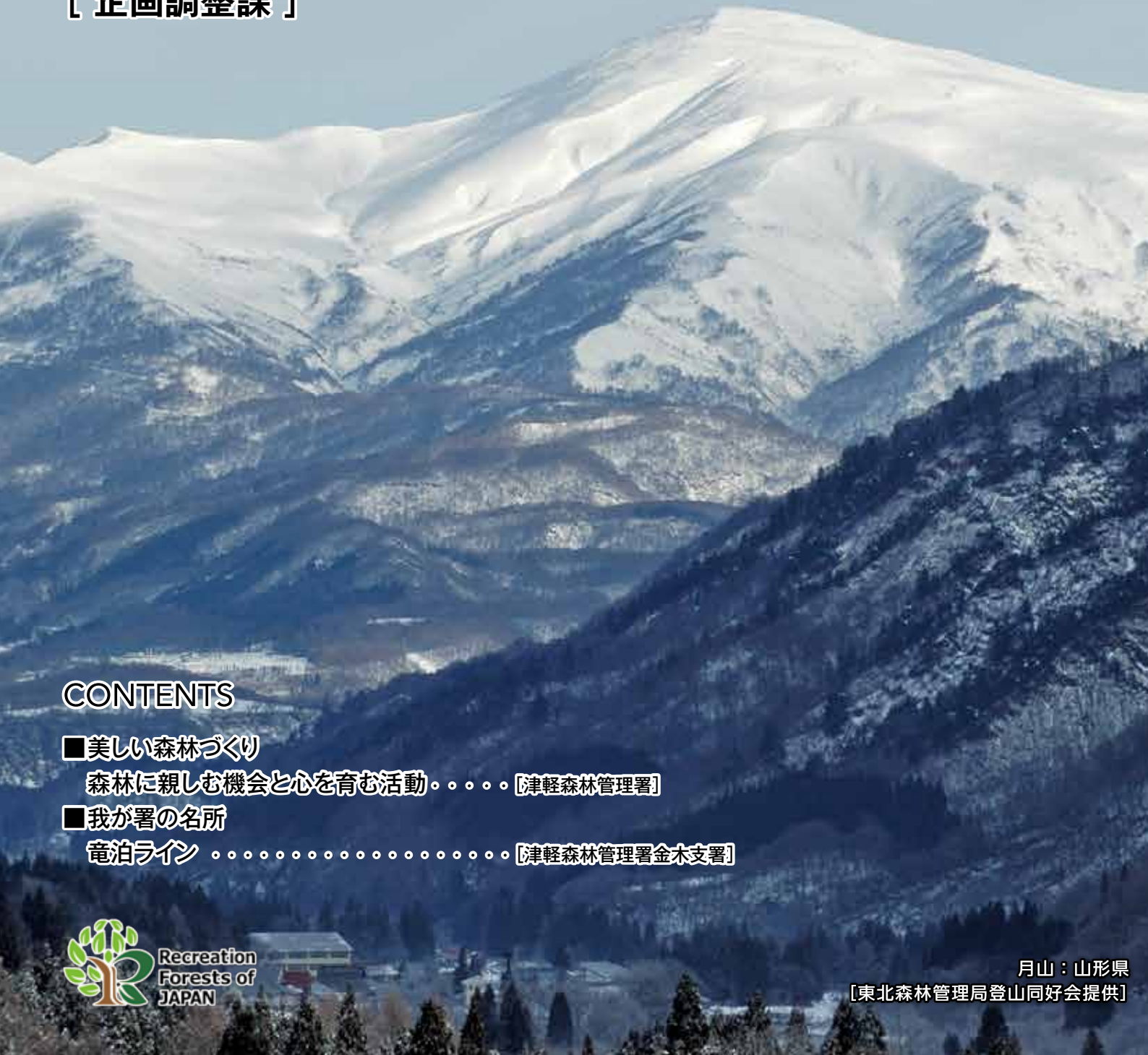
MIDORI NO TOHOKU

Vol. 177
東北森林管理局

特集

平成30年度第２回国有林モニター現地見学会の概要

［ 企画調整課 ］



CONTENTS

■美しい森林づくり
森林に親しむ機会と心を育む活動・・・・・［津軽森林管理署］
■我が署の名所
竜泊ライン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・［津軽森林管理署金木支署］

Recreation Forests of JAPAN

月山：山形県
［東北森林管理局登山同好会提供］

Special Feature Article

特集

平成30年度第2回国有林モニター現地見学会の概要

企画調整課

林野庁では、国有林野の管理経営に国民の皆様のご意見・ご提案を役立てるため、「国有林モニター制度」を設けています。東北森林管理局においては、平成30年4月から2年間を任期として、管内5県にお住まいの48名の方に国有林モニターとしてご就任いただいております。国有林モニターは一般の方々を対象として公募し、資料提供や現地見学会（モニター会議）などを通じて国有林野事業についてのご理解を深めていただき、アンケートや意見交換等を通じて、ご意見・ご提案をいただくこととしております。

こうした国有林モニター活動の一環として、10月16日（火）に岩手県の盛岡森林管理署管内の国有林において、森林資源の循環利用に必要不可欠な再造林における取組をテーマとして、平成30年度第2回国有林モニター現地見学会を開催しました。なお、第1回は、国有林野事業の根幹をなす「治山事業」と「生産事業」をテーマとして、7月23日（月）に山形森林管理署管内の国有林において開催しております。

第2回現地見学会では、コンテナ苗を活用した伐採と造林の一貫作業システム、ニホンジカによる森林被害の防止対策をご見学いただきました。

シカによる森林被害とその対策の説明風景

まず、岩手県盛岡市内の国有林の平成30年度防鹿柵（PEネット）設置箇所において、シカによる森林被害とその対策についてご説明しました。

近年、シカの分布域の拡大に伴い、東北森林管理局管内でもシカによる森林被害が増加しています。シカによる森林被害は、木の枝葉を食べることによる生長阻害、立木の樹皮を剥がすことによる枯損や木材価値の低下、下層植生を食べることによる下層植生の消失や踏みつけによる土壌の流出等があり、森林所有者の林業経営意欲の低下や、森林の持つ多面的機能への影響が懸念されています。東北森林管理局では、シカによる森林被害の防止のため、苗木を守るツリーシェルターや造林地へのシカの侵入を防止するためのネット等の防鹿柵の設置など様々な対策を行っています。

現地では、防鹿柵（PEネット）の内部のスギ造林地で、盛岡森林管理署総括森林整備官より、平成28～29年度に設置した「さいネット」や金網柵との違い等について説明した後、シカの生態等について質疑応答が活発に行われました。

その後、岩手県滝沢市内の国有林に移動し、

コンテナ苗を活用した一貫作業システムの見学と、植付け作業を体験していただきました。

チェーンソーによる伐倒

一貫作業システムは、従来は別々に契約していた伐採作業と造林作業を、一つの契約として発注し、伐採から造林までを連続して行う作業システムです。これまでは、伐採後、一定の期間を置いた後に植栽をしていたため、地拵えや植栽現場への苗木運搬は人力で実施することが一般であり、多くの時間と労力を要することとなっていました。一貫作業システムでは、伐採や搬出に使用した林業機械を用いて、伐採してすぐに伐採跡地に残された末木枝条を除去し、これらの機械で苗木を運搬した上で、植栽を行うため、造林作業を省力化することとなり、全体としての育林の作業コストを大きく縮減することが可能となります。

コンテナ苗は、裸苗の植栽適期である春・秋以外でも高い活着率が見込めるため、伐採後に時間を置かずに植付けをする一貫作業システムでの使用に適しています。

現地では、チェーンソーによる伐採を見学していただいた後、ハーベスタとフェラーバンチャ・ザウルスロボを用いた一貫作業システムの流れをご覧いただきました。その後、モニターの皆様にディプル（コンテナ苗の植付器具）を用いてコンテナ苗の植付け作業をしていただきました。短い作業時間となりましたが、多くの苗木を植えることができました。

ハーベスタによる伐倒

コンテナ苗の植付け作業の様子

フェラーバンチャ・ザウルスロボによる枝条整理作業

美しい森林づくり

森林に親しむ機会と心を育む活動

津軽森林管理署

津軽森林管理署では、管内のこども園の園児、小学校児童、中学校生徒に、森林に親しむ機会と心を育むための活動として、体験林業や植樹体験に協力しています。

この活動を通じて、将来一人でも多くの子どもたちが「美しい森林づくり」に何らかの形で関わってくれることを願っています。

○鰺ヶ沢こども園での「花いっぱい運動」

平成30年5月10日（木）、年長児14名と当署職員・津軽白神森林生態系保全センター職員が協力して、間伐材で作ったプランターに花の苗を植え付けました。

小さい頃から土や植物に親しむこと、木材で作ったプランターなどの木製品を使うことで、身近にある自然や環境に対して少しでも興味を持ってくれることを願っています。

当日は、地元新聞社2社のほかNHKも取材に訪れ、行事の様子は夕方のニュースや翌日の新聞で報道されました。

職員も園児と楽しい時間を過ごせたことで、優しい気持ちになれました。

鰺ヶ沢こども園での「花いっぱい運動」での様子

○小学生を対象とした森林教室の開催

鰺ヶ沢町内の小学生を対象とした森林教室（体験林業と広葉樹林の散策）を、平成30年9月6日（木）、舞戸小学校4年生児童35人、9月13日（木）、西海小学校5年生児童27人で実施しました。

両校とも、午前中は、ノコギリを使ってスギ造林地での体験林業（除伐、枝打ち、つる切り）と北限の天然スギの大きさを実感するため、測定器具を使って木の高さや太さを測りました。

午前中の体験林業を終えた児童からは、スギの木の周りがきれいになってスッキリした、大きく育って欲しいとの感想が聞かれました。

午後からの広葉樹林の散策（白神の森 遊山道）では、職員の案内と解説で、森林の豊かさや「水源」について学習しました。

この様子についても、地元テレビ局や地元新聞社の取材を受けて報道されました。

小学生を対象とした森林教室での様子

○中学生を対象とした植樹指導

平成30年5月11日（金）大鰐中学校新入生による記念植樹での植樹指導に協力しました。

大鰐町の茶臼山公園において、平成30年度に入学した1年生48名を対象に、大鰐町の花として制定されている「つつじ」の記念植樹が行われました。

署からは、中学生と年齢が比較的近い（といっても10才以上違う）若手職員が多く参加し、生徒との会話を楽しみながら植樹指導を行いました。

公園は学校に近く、自分が植えた「つつじ」をいつでも見に来ることが出来ます。

中学1年生は、子どもから大人への過渡期でもあり、つつじの生長とともに生徒も成長して欲しいと願って行事を終えました。

中学生を対象とした植樹指導の様子（写真は昨年のもの）

各地からのたより

いわて林業アカデミーの研修生を受入れ（平成30年度2回目）

盛岡森林管理署

昨年4月に開校した「いわて林業アカデミー」では、1年の研修期間で林業に関する知識や技術を体系的に習得し、将来的に林業事業体の経営の中核となり得る現場技術者を養成するための研修を行っています。

今年度の第2期研修生18名は、林業の現場の専門家で構成する「いわて林業アカデミーサポートチーム」や東北森林管理局、岩手大学、森林総合研究所、林業事業体、指導林家等の協力により、座学や現場実習に日々奮闘しています。

国有林関係では、盛岡森林管理署管内において5月28日の「鳥獣害対策」に続き、10月10日（水）、10月11日（木）の2日間の日程で、当署職員が講師となり国有林の業務内容の紹介や事業フィールドを活用した研修を行いました。

1日目は、署会議室において安永署長より「東北の国有林について」と題し、国有林の施策や岩手県内での取組等について紹介しました。

安永署長の講義

18名の第2期研修生

午後は雫石町の網張国有林において、岩手山の火山防災対策としての治山ダムの施工状況と保安林制度について説明を行いました。

治山ダムの概要説明

保安林制度についての説明

その後、滝沢市の一本木山国有林へ移動し、ハーベスタやフェラバンチャ・ザウルスロボなどの高性能林業機械による伐採から集造材、カラマツコンテナ苗の植栽まで一貫作業システムによる一連の作業について見学し、低コスト林業の取組状況について理解を深めていただきました。

2日目は、岩手町の四日市山国有林において、民国連携の取組として「岩手町横断松くい虫防除帯森林整備推進協定」に基づいた森林共同施業団地内での樹種転換に向けた取組状況や、今年度新たに設定した試験地において「2条、3条植栽による下刈の省力と郷土樹種（広葉樹）を活用した多様な森づくり」の概要について説明しました。

ザウルスロボによる集材状況

ハーベスタによる伐倒状況

民国連携の取組紹介

2条、3条植栽の説明

その後、滝沢市の影添国有林に移動し、昨年度東北森林管理局で開催された森林・林業技術交流発表会において当署で発表した「平蔵沢ヒバ人工林における天然更新による施業方法について」、樹齢約180年のヒバ展示林で説明を行いました。雪害により空間ができて、陽があたることによってヒバ稚樹の繁茂が旺盛になっている状況や、立木価格ではスギの約30倍の単価となることに驚いた様子で、「ヒバ大径木をチェンソーで伐倒してみたい」という研修生もいました。

ヒバ展示林の紹介

ヒバ稚樹の生育状況説明

研修後のふりかえりでは、「森林の3割を占めている国有林では、健全な森づくりのため保護林を設定したり、地球温暖化対策に貢献する取組を行っていることがわかった」、「座学で学習した後に、現場で実際に低コスト林業の取組などを見学し、森林管理署で取り組んでいることを理解できた」などの感想がありました。

盛岡森林管理署では、今後も講師の派遣やフィールドの提供等を通じて国有林の取組を紹介しながら、地域の技術者育成に向けて協力してまいります。

焼走（やけはしり）自然観察教育林視察会を開催

岩手北部森林管理署

10月11日（木）、焼走自然観察教育林視察会を開催しました。焼走自然観察教育林は、平成29年度において、特に優れた森林景観を有するなど、観光資源としての潜在的魅力が認識されるレクリエーションの森として、「日本美しの森お奨め国有林」に選定されています。それを受けて、当署では、30年度までの2カ年にわたって、地元の八幡平市からも意見を聴きながら、林野庁の新規事業である「森林景観を活かした観光資源の創出事業」により、修景伐採、歩道整備および林内整備を実施してきました。

今回の視察会は、関係者から、整備の実施状況について意見を聴くとともに、一層の活用を推進するため、ワークショップも実施したところです。視察会には、八幡平市内にあるレクリエーションの森を総合的に管理運営できるよう、平成28年度に設立された「八幡平地域総合森林レクリエーションエリア管理運営協議会」の構成員、岩手大学学生および当署職員など、総勢23名が参加しました。

視察会の様子

はじめに、八幡平地域総合森林レクリエーションエリア管理運営協議会長である八幡平市の田村市長から、今回の開催主旨等につい

て挨拶をいただき、カラマツ林内に新設した遊歩道やかん木等を除去した林内整備の実施状況を確認しました。参加者からは、「あの、うっそうとした林内がウソのように綺麗になっている」、「舗装もされ、気持ちよく散策できそうだ」といった感想が出されました。次に、岩手山の眺望の改善を図るために実施した修景伐採について、伐採本数等も説明して岩手山の眺望を確認しました。参加者からは、「岩手山山開きの神事の際、岩手山がほとんど見えていなかったが、改善されている」という感想が出され、大変好評をいただきました。

視察後は会場を室内に移し、「新しいレクリエーションの森の活用法の提案」というテーマで、3グループに分かれワークショップを実施しました。ワークショップは、予定時間を若干オーバーするほどに白熱し、「集客を増やすためにコアターゲットを絞る」、「リーダーの養成や研修フィールドとして利用」、「季節に応じた通年利用」等といったアイディアが出されました。アイディア出しの後は、各グループで発表を行い、今回の視察会を閉会しました。

この取組は、八幡平市におけるレクリエーションの森に関する包括的な協議会が設立されたことにより、実現できたものだと考えています。このように、地域とともに事業を実施し、その成果を確認するとともに、さらに今後の発展を見据えた今回のような視察会等を継続的に実施していくことで、レクリエーションの森の利用者増加につながっていくものと考えています。

ワークショップの様子

無人航空機（ドローン）操作の伝達講習会を開催

由利森林管理署

9月5日、由利森林管理署において職員が講師となり、ドローンの安全な飛行のための操作に関する伝達講習会を開催しました。

当日は16名の職員が参加し、午前は署の入札室で無人航空機の定義や飛行に関する基本知識、関係する法令や操作方法の説明など座学を行い、午後からは皆伐跡地に移動し、見通しの良い現地において実技の指導を受けました。

ほとんどの参加者が操作することはもちろん、実際にドローンが飛行する様子を見るのも初めてということもあって、やや緊張しながらの実技講習となりましたが、前後・左右・旋回や上昇・下降といった基本的な操作は比較的早く慣れた人が多かった印象でした。

実技講習の様子

実際に操作した参加者からは「思っていたよりは簡単だった」という話のほか「機体が前後逆になったときに戸惑う」「開けた場所でないと操作が難しそう」といった感想が出されていました。

今後も操作技術の向上を図り、海岸林を中心とした森林病虫害の調査やレク森の保全状況の確認、林地崩壊等の状況把握などで活用し、業務を効率的に進めていきたいと考えています。

上空からドローンで撮影

mini corumn

ドングリ（団栗）

森林技術・支援センター 森林技術専門官　増田　悠介

ドングリというと皆さんはどんなものを想像するでしょうか。ドングリはブナ科樹木の果実（堅果）の総称で、堅果の部分と殻斗（お椀あるいは帽子のような形）の部分で構成され、日本には22種が知られています。今回は東北地方で見られるドングリについてご紹介します。

カシワ（柏）はブナ科コナラ属の植物で堅果は卵球形で大きさはクヌギよりやや小さく、殻斗は棘のような総苞片が密生します。食べるためには渋抜きが必要。

クヌギ（椚）はブナ科コナラ属の植物で堅果は球形で大きさは直径約２㎝と大型で半分はお椀型の殻斗に包まれ、殻斗は細く反り返って棘状になっています。食べるためには渋抜きが必要。

クリ（栗）はブナ科クリ属の植物で堅果はイガと呼ばれる鋭い棘のある殻斗に２～３個入っています。一般的にはクリと呼ばれていますが、広義の意味ではドングリに含まれます。渋がなく、食べられます。

ブナ（橅）はブナ科ブナ属の植物で堅果は三角錐の痩せたような形で柔らかい棘のある殻斗に２個包まれています。成熟すると、殻斗が4裂します。渋が少なく、食べられます。

ミズナラ（水楢）はブナ科コナラ属の植物で堅果は卵状楕円形で殻斗はお椀型で鱗状になっています。食べるためには渋抜きが必要。

里山あるいは公園などに行けばドングリが落ちていますが、クリ以外のドングリを食べる機会は少ないと思います。ドングリは栄養価が高く縄文時代には食料にしていたとされています。最近ではどんぐりコーヒー、どんぐりクッキーなどが有名ですね。岩手県ではドングリを使った、しだみ団子というものもあります。時間があるときに試してみてはいかがでしょうか。

カシワ（柏）

クヌギ（椚）

クリ（栗）

ブナ（橅）

ミズナラ（水楢）

森林官からの手紙

八幡岳の麓　七戸より

三八上北森林管理署　七戸森林事務所　森林官補　山田　南美

私は今、青森県の七戸町に位置する七戸森林事務所に勤務しています。七戸町は、にんにくや長芋の栽培と畜産業が盛んなのどかなところで、夏場は毎日、それらの匂いを感じ馬や牛を眺めながら、山に行っていました。

山での仕事は、境界の調査や造林等の事業の監督、林道等施設の点検など多岐にわたります。私は今年度が初めての森林事務所勤務で、最初のころは「こんなに山の奥まで行くの？」と不安になることもありましたが、最近は次期森林計画の案の作成に取り組んでおり、山を見て「今後この山にどう手を入れて、どう成長させていこうか？」と考えるのが難しいと同時に楽しいです。管内の森林は、先輩方が大切に育ててきた人工林や自然の力によって成立した美しい天然林などバラエティに富んでおり、私の山を見る目と山づくりを考える頭を養ってくれます。

【八幡岳山頂からの眺望】天気が良ければむつ湾も見え、とても爽快な気分になれます。

さて、今年度いろいろな仕事をしてきた中でも印象的だった仕事の一つとして、七戸町にある八幡岳での植生調査についてご紹介したいと思います。八幡岳は元々ブナ林が広がる山だったそうですが、昭和中期から平成初頭にかけて、一部が放牧場として使用されていました。近年、そこで地元住民を中心としたボランティアによる植樹祭が開催されるなど、豊かな森に戻そうという動きがあります。私は今年4月に七戸町に引っ越して以来多くの住民と知り合いましたが、多くの方から八幡岳のお話を聞き、八幡岳は地元住民が昔から愛してきた大切な山だということを強く実感しました。今夏、これまでの植樹活動等の成果を整理するため植生調査を行ったので、これから調査結果をまとめ、森林に戻すための効果的な作業方法の検討をしていく予定です。

【植樹祭の様子】
参加者は多い年には約 300 人に及びました。

【植樹されたブナ】ウサギ等の食害も見られますが、力強く生きています。調査を通じて、じっと生きている様子が愛おしく思えるようになりました。

よく「我々の仕事は森林を管理することだ」と言いますが、それは偉大な自然の力に向き合うと同時に、山の恵みを受ける人の生活にも触れる、とてもスケールが大きく難しい仕事だということを肌で感じている毎日です。引き続き、山に対しても人に対しても謙虚に頑張ります。

七つ滝（写真②）

権現崎（写真①）

折腰内海岸（写真⑤）

眺瞰台からの北海道（写真④）

一の坂石碑（写真③）

我が署の名所

竜泊ライン

津軽森林管理署金木支署管内
青森県北津軽郡中泊町

当津軽森林管理署金木支署は、青森県の津軽半島の日本海側に接する国有林約３万haを管理し、ほぼ全域が津軽国定公園に指定されていますが、今回は北津軽郡中泊町の小泊地区の名所を紹介します。

津軽鉄道の「津軽中里駅」から国道３３９号線を北上すること約20分、五所川原市脇元地区に入ると左手に「権現崎」（写真①）が見えてきます。この「権現崎」は、海抜２２９ｍ、日本海から獅子が横たわっている様に突き出た巨大な岩山で、長崎の野母崎とともに、日本の「二大名岬」と言われる景勝地です。漁業が盛んな小泊地域の安全を祈る神社が建立され、遊歩道も整備されており、頂上からは北海道・岩木山・十三湖等パノラマ景色を楽しむことができます。

そこから、竜泊ラインに入り進むこと約25分。道路右手に「七つ滝」（写真②）があります。この「七つ滝」は、名のとおり７段からなる高さ21ｍの岩肌に「飛沫（しぶき）」を上げる滝で、穏やかな天気の日には絹糸のような流れを見ることができます。

更に進むこと約５分、道路左側に「一の坂」の石碑（写真③）があります。ここ竜泊ラインの開削は陸上自衛隊第９師団の施工によるもので、昭和51年現地を視察した坂本力師団長と当時の県土木部長の間で、この見晴らし地を「坂本台」とし、この坂が竜飛岬に通じる最初の坂として名付けられたことに由来し、ここからは遠く岩木山や権現崎を眺望できます。

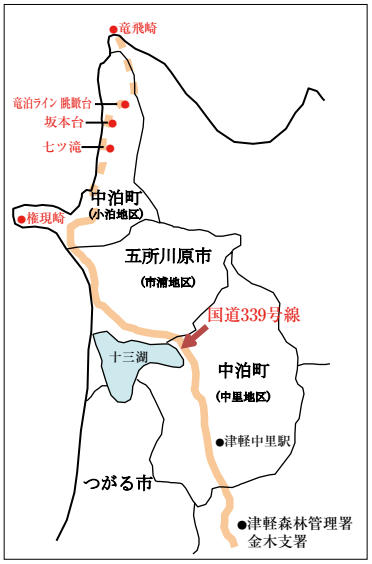
最後に紹介するのは、竜泊ラインの最高地点にある展望台「眺瞰台」です。

標高約４７５ｍあり、風も強く夏でも少し涼しげで、天気の良い日は北に北海道を南に岩木山が望め、竜飛崎灯台も間近に見ることができる絶好の展望ポイントとなっています。（写真④）

また、「七つ滝」の手前の「折腰内海岸」（写真⑤）では、毎年夏にビーチサッカー大会が、県内から１００チーム以上が参加して行われ、向かい側には「道の駅こどまり（ポントマリ）」があり、ご当地グルメの「中泊メバル膳」が好評です。

皆さん、来年の雪解け後に一度竜泊ラインを自家用車でゆっくりドライブがてら、各名所を訪れてみてはいかがですか？

（竜泊ラインは、冬期間（11月下旬から翌年４月下旬頃）は閉鎖となっています）



津軽森林管理署金木支署
〒037-0202
青森県五所川原市金木町芦野200-498
TEL 0173-53-3115
FAX 0173-53-3197

東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。